

ふれあい名古屋



スマイルサポート

地域の団体と連携して
生活の困り事の支援へ
(中村区社会福祉協議会)

←害虫駆除で協力
(有限会社森山環境科学研究所)



ふとんの提供で協力
(ふとん屋万与) →



【特集】福祉クローズアップ

複合的な課題を抱える人々を関係機関と協働して支援 「重層的支援体制整備事業」が4月からスタート

CONTENTS

活動最前線 南区社会福祉協議会	4
想いをつなぐリレートーク / ながら体操	5
ほっとはあとコーナー	6
● 旬ボラに行く！ まちが輝き、わたしも輝く！～映像制作で名古屋に貢献～	
● ボランティア・NPOウォッチング	
● きらっとボランティア・NPOらいぶ	
● 地区のオススメのボランティア	
からだに優しいいきいきレシピ / プレゼントつきクイズ	10
インフォメーション	11
ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介	12

今回の特集は、
中村区社会福祉協議会の
包括的相談支援チームの
皆さんにお話を
伺いました。
関連記事：2・3ページ



な～や

特集：福祉クローズアップ



左から
名古屋市中村区社会福祉協議会
主事 竹田奈穂子さん
事務局次長 村田敏明さん
包括的相談支援スタッフ
貞末裕香さん

複合的な課題を抱える人々を 関係機関と協働して支援 「重層的支援体制整備事業」が 4月からスタート

名古屋市では、令和4年4月から「重層的支援体制整備事業（以下、重層事業という。）」のモデル実施が始まります。重層事業は、令和2年の社会福祉法改正により、市町村における包括的な支援体制の構築を推進するため、創設された事業です。

近年、個人や世帯が抱える生きづらさやリスクが複雑化・多様化しており、従来の分野別（子ども、高齢者、障がい者など）の相談窓口では対応が難しい、困っているにも関わらず支援の手が行き届かない「制度の狭間の問題」や高齢の親がひきこもっている中高年の子の生活を支える8050問題など「複合的な課題」を抱えた世帯が増えています。

重層事業は、既存の枠組みを超えて、①断らない相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援の3つの支援を一体的に行うことで、こうした新たなニーズに応えようとしています。

名古屋市では、まずは北区・西区・中村区・南区の4区に「包括的相談支援チーム」を配置してモデル実施を開始し、令和6年度には全区での本格実施を予定しています。

そこで今回は、令和3年10月から準備を進めてきた中村区社協の職員に重層事業の取り組みについて伺いました。

これまで築いてきた地域との関係性を生かす

中村区社協では、新たに「包括的相談支援チーム」を配置し、多機関協働事業、アウトリーチ事業、参加支援事業に取り組んでいます。

「多機関協働事業」は、単独の相談支援機関などでは対応できない複合的な課題などを抱えるケースを、区役所や各分野の相談支援機関（いきいき支援センターや障害者基幹相談支援センターなど）、地域関係者（民生委員や町内会長、ボランティアなど）といっしょに支援を行っていくもので、包括的相談支援チームが多機関協働の中核的な役割を担っています。

各相談支援機関が相談を受けても、複雑化、

複合化した内容で対応できない場合は、包括的相談支援チームに連絡をしてもらうことで、各機関とのコーディネート、話し合いを行い、支援の方法を探っていきます。「中村区社協は地域の支援機関、団体と関係性を築いてきました。その強みを生かして、支援の制度からこぼれ落ちてしまう人を支えていく仕組みを作りたい」と村田さん。

定期的に行われる重層的支援会議には、複数の相談支援機関が参加し、ケースごとに支援プランの協議などを行います。「ケースへの社協の動きを共有できると同時に、各機関がお互いにこんな機能があると分かります。結果的にみんなの相談能力が上がり、中村区全体のチーム力向上になります」と竹田さん。

中村区独自の 「スマイルサポート事業」



中村区には18の学区がありますが、区社協の学区担当者は地域と強いつながりを持っています。民生委員などの会議に出て、困りごとなどを拾い上げ、包括的相談支援チームと一緒に問題解決に向けて考えていきます。

「アウトリーチ事業」はこのような潜在的ニーズを把握するための取り組みで、中村区では主に2つの取り組みを進めます。1つ目の「住環境整備のための相談」は、中村区社協が令和2年から独自で行ってきた「スマイルサポート事業」を継続したもの。中村区は古い家屋が多く、住環境が悪化（ゴミ屋敷、家具や設備の故障や損壊、害虫など）している上に、住民の方が制度の狭間に陥ったり、支援拒否をされている場合があります。事業ではそうした住宅の環境改善を福祉の専門職と住環境整備の団体が連携して実施し、その後の継続的な生活の相談支援を行います。

スマイルサポート事業では不要品処分や害虫駆除、水回りなど住環境整備で関わる専門業者へ中村区社協の「パートナー企業・団体登録」をしてもらえるよう呼びかけています。専門業者が仕事に訪れた際に気になった世帯を紹介してもらったり、ケース会議へ出席してもらって専門家ならではのアドバイスをもらうのが狙いです。

スマイルサポート事業を当初から担当してきた竹田さんは、「専門業者の知恵と社協の専門性が一緒になると、どちらにもメリットがある。今後はもっとパートナー企業を増やしたい」と話されていました。

アウトリーチ事業の2つ目は「食を届ける支援」です。区社協では、以前から企業やメーカーからフードロスについて相談を受けたり、実際に多くの食品が寄付されています。その食品を、食の支援を受けたいという困窮家庭につなぐのはもちろん、有効に活用する仕組み作りも計画

しています。例えば子育て世代の相談、訪問のきっかけづくりや、つながりを維持するために食品を届けることも検討中です。対面できれば、本人の健康状態や困りごとが把握できると共に、信頼関係を築き、次の支援につなげることもできます。

外出のきっかけとなる「交流拠点」整備の予定

さらに、中村区では「参加支援事業」として「つながりづくりの交流拠点」を設ける予定です。区内に1カ所、空き家かマンションの一室を借りて、引きこもりの方や不登校気味の中高生などが外出のきっかけとなるような、気軽に来られ、相談もできるような場とします。さらに地域のコミュニティースペースとし、社会との接点や地域との出会いの拠点になることを目的とします。

8050問題を未然に防ぐため、若者支援に注力

令和3年12月までに寄せられた約30件の相談の内訳は、住環境の悪化が11件、若者の不登校や引きこもりなどの支援が8件、8050世帯や50代などの引きこもりが5件などでした。社協は高齢者の支援が中心と思われがちですが、子ども分野の支援機関との関係づくりにより若者についての相談も増えてきています。

そのため包括的相談支援チームの今後の方針としては、「若者支援にも力を入れたい」と村田さん。現在の8050問題は、当事者へ若い頃から支援をしていけば、引きこもりや孤立化を防げたかもしれないため、「早期発見、早期対応をしたい」。そのために「つながりづくりの交流拠点」が生かせたらと話していただきました。

今年1月からチームに加入した貞末さんは、「地域とつながりのある部署は初めて。この人に相談したいと思われるようになりたい」と抱負を語っていただきました。

今回は

社協活動最前線 Vol.48

南区社会福祉協議会

寄附を通じた地域参加の仕組み作り「善意をつなぐプロジェクト」

寄付者と受け手の思いをつなげ、 地域福祉への参加の機会を創出

南区社協では、寄付事業の枠を広げた「善意をつなぐプロジェクト（以下、善つな）」を行っています。「善つな」は、区民の方の「必要な方へ届けてほしい」という善意の気持ちを、社協が窓口となり支援の必要な方へお届けする事業です。

事業立ち上げのきっかけは、コロナ禍になりマスクの寄付が増えたことです。ボランティア活動まではできないが、困っている人の役に立ちたいと思っている区民の方の存在に気づき、地域活動に区民を巻き込むきっかけになればと願って『善つな』は誕生しました。

ある時、「亡き奥様の着物を」と寄付があり、手芸サロンへお渡ししたことがありました。寄付者の思いをサロンの方へお伝えしたところ、サロンの方が着物を布マスクにリメイクし、寄付者へと託してくださいました。すると大変喜ばれ、奥様の仏前へ飾ってくださったそうです。これ以降、寄付者と受け取った方の思いをきちんとつなげ、地域のために役立てられていることが伝わるよう、「社協からみなさまへ」という広報誌を発行し、情報発信に力を入れています。

また、寄せられた物品は、施設や事業所だけでなく、生きづらさを抱えた方や困窮世帯、ひきこもりの方など、個人の方の支援にも役立てられています。いただいたゴーヤの苗とプランターなどを活用し、在宅サービスセンター屋上で家庭菜園を開始。引きこもりの方の外出のきっかけとして、お世話を願いますと、積極的に取り組んでいただき、「土と触れあうのが楽しい」との感想も。普段は料理をされないそうですが、取れたゴーヤ使って料理に挑戦。ご家族の方にはふるまわれるなど、本人のやりがいと自信につながったそうです。

制度の狭間で悩む方々の 生活支援・社会参加に活用

これまでに寄付物品を渡した先は、施設や団体へ約50件、個人へ約100件。個人では、コロナ禍による生活福祉資金貸付制度の窓口へ訪れた方へ、食品や調理器具などを渡すこともあるそうです。また、寄付いただいた金券を活用し、困窮されている方が自立に向かう活動へ参加するための交通費支援も行います。

南区では制度の狭間で困っている世帯への支援に力を入れており、様々な生活課題をもった方の相談を受けています。金銭的な支援を含む制度では解決できない個々の困りごとに対し『善つな』で寄せられた寄付物品が役立てられています。

一方で「寄付の受け入れ先とつなぎ先の開拓が今後の課題」と伊藤さん。企業や団体、施設とのネットワークを広げていくことで、より多様な需給調整が可能となります。

『善つな』は、社協と住民と関係機関が福祉について協議、運用する「地域福祉活動計画」に位置づけられています。馬場さんからは「よりよい仕組みとなるよう活動計画を通じて地域や機関・団体の皆さんと考えていきたい。それぞれの需給調整が点と点ではなく面として仕組みにしていければ」と今後の抱負を話していただきました。



南区社会福祉協議会
職員のみなさま

想いをつなぐ

リレートーク 48



社会福祉法人愛知育児院 児童養護施設南山寮
 自立支援担当 北 雄二さん

私は、退所した子たちのアフターケアや、入所中の子どもたちの進路相談、自立スキル習得のためのセミナーなどを担当しています。また、子ども自身が納得した進路決定ができるように、進学や一人暮らしをする場合、退寮までにどれくらいのお金が必要なのかをシミュレーションすることもあります。

南山寮の退所生の多くは、市内の社会福祉法人が連携して取り組む「なごや・よりどころサポート事業」の就学支援を活用しています。就学支援では毎月来寮するという条件があるのですが、この施設との繋がりを途切れさせない狙いこそ、重要だと思っています。

つい先日、施設との繋がりの大切さを実感した出来事がありました。施設退所者の実態調査を行った際、思い出したくない過去もあったかもしれませんが、調査協力を依頼した退寮生全員が、「自分が施設で過ごした経験が今の、そしてこれからの施設の子どもたちのためになるのであれば…」という思いで、快く引き受けてくれました。そういった協力を得ることができたのも退寮生との繋がりを絶やすことなく、根気強く見守り続けた結果だと思っています。

こんなご時世だからこそ、これからも人との繋がりを大切にしていきたいものです。

次回は

楓林花の里
 副施設長
 はやし ふみのり
 林 史典さんへバトンタッチ



椅子に座って

ながら体操

仕事や家事の合間に、「椅子に座りながら」できる体操です。

第15回 ヨガで腕を引き締め

ヨガのワシのポーズで、二の腕を引き締め、肩こりも予防します。

- 1 両腕を前に伸ばし、右腕が上になるように交差させます。



- 2 手の甲を合わせて、肘を90度曲げます。肩甲骨が開いているのを意識します。



- 3 できる人は、手首をひねり、左右の手のひらを合わせます



- 4 手を合わせたまま腕を上げ、背筋を伸ばして5回、深呼吸します。左右の腕を変えて、繰り返します。



旬ボラを行く!

本号のテーマ

まちが輝き、わたしも輝く! ～映像制作で名古屋に貢献～

年度始めにぴったりの若々しい学生団体 ISIKI (イシキ) 代表・
ながなわりほ長縄理帆さんとくぼた窪田くららさんに、活動場所である栄・ナディア
パーク内「N-base」でお話を聞きました。

(インタビュー：旅する食いしん坊 YM)



● ISIKI のプロフィールを紹介してください。

2009年にできた名古屋地区を中心とした大学生グループです。NAGOYA 学生キャンパス「ナゴ校」に登録しており、毎週1回「N-base」に集まって計画を練る他に、各地の自治体や民間企業に協力してボランティアな活動をしています。企画・撮影・編集など映像制作をとおして名古屋の魅力を発信する活動が自分たちの夢の実現につながればと思って取り組んでいます。

● これまででとくに印象深かった動画制作は?

常滑市のお祭りや、名古屋市立小学校の子どもたちのために映像作品を提供しました。また、YouTube チャンネル「ナゴ校 TV」配信に協力したこともあります。

現在進行中の活動については、各種 SNS で紹介していますので、ぜひ【学生実行委員会 ISIKI (ナゴ校)】で検索してみてください。

● これからの課題だと考えていることがあれば

現在、10人ほどで楽しく活動できていますが、以前とちがってメンバーが女子ばかりになっています。次年度活動方針を相談するときには、メンバー推移の〈傾向と対策〉も話題にするつもりです。

● 「ナゴ校」・「N-base」について（「学生タウンなごや」を応援する市総務局・奈良聡さんより）

学生にとって魅力あるまち、「学生タウンなごや」を目指す名古屋市が、学生と社会（企業・地域・大学・行政）をつなぐプラットフォームとして平成24年4月に開校したのがナゴ校です。自由な発想に基づいていきいきと活動する学生を「まちづくりのパートナー」として、地域の活性化につなげていきます。「N-base」は、名古屋の魅力と活力向上に向けて活動する学生の活動場所として、ミーティングや作業ができるように市が設置した共同活動拠点です。

● インタビューを通して

取材の間、定例ミーティングのために横で待機するメンバーからは、若さあふれる華やいだ雰囲気が伝わってきました。ISIKI (イシキ) というグループ名には、いつも意識高くありたいという願いが込められているそうですが、自分たちのまち名古屋を盛り上げるために映像制作ノウハウ（と時間、体力）を提供するそのボランティア精神、そこで学んだことをそれぞれの将来の夢につなげようと生き生きと行動する皆さんの姿に、若いっていいな！を実感した今回の取材でした。



【お問い合わせ】

学生実行委員会 ISIKI
E-mail : isiki.gakusei@gmail.com
Instagram アカウント : isiki_nagoya

ボランティア・NPOウォッチング

団体の活動内容等を紹介するコーナーです。

ほっとはあと
コーナー

ふれあい名古屋では、地域の人、ボランティアや企業、学校関係者などが読みたいと思うボランティア情報発信を目的に、ほっとはあとボランティア情報発信を目的に、ほっとはあとボランティアクラブ（ボランティアの方々）と本会ボランティアセンターの協働編集（取材・執筆）による「ほっとはあとコーナー」を掲載しています。

風テラス

【団体概要・活動内容】

風テラスは、性風俗で働く女性のための無料生活・法律相談窓口です。

貧困や失業、精神疾患などの理由でやむをえず性風俗業界で働いているにもかかわらず、社会の中で不可視化され、孤立している女性たちがいます。

性風俗で働いていることを隠さずに安心して相談できる機会をつくることを通して、彼女たちに必要な法的支援と福祉的支援を届けることを目指しています。



オンライン相談の風景



名古屋の相談室

【活動に参加している方の思い】

風テラスでは、弁護士とソーシャルワーカーのチームで女性からのご相談を受けています。

債務整理や店舗トラブルなどの課題には弁護士の知見を活用し、生活保護や自立支援については、ソーシャルワーカーが適切な制度や窓口につなげる役目を担っています。

LINE やツイッターなどでの情報発信を積極的に行い、つながりづらい女性たちとつながるためのアプローチを行っています。

また、風テラスでは、社会人・学生ボランティアの方も日々の相談支援業務や食料発送に協力してくださっています。

私たちの活動をサポートしてくださる方、随時募集中です。

【お問い合わせ】

LINE futeras メール info@futeras.org
URL https://futeras.org/

ふくちゃんきたちゃんボランティア委員会（通称 ふくきた委員会）

【団体概要・活動内容】

ふくきた委員会とは、広義にはボランティア連絡協議会のように狭義にはその運営委員会のような、といったイメージでしょうか。活動の柱は3つ①ボランティアをはじめ福祉関係者協同で区民誰もが集え交流できる年4回の「プチサロン」②自分達の資質向上のための学びの機会「ふくきた研修会」③いわゆる福祉関係者と地域団体の活動者が顔を合わせ学区ごとに地域づくりを考え合う「みんなで交流会」の開催です。



一昨年のもんで交流会



プチサロンののぼり

【活動者からのメッセージ】

「北区を誰もが安心して暮らせるふくしのまちに！」—そういう想いで関わってくださる方々全てがふくきた委員会のメンバー!!と考え組織化は取ってせず、その輪郭は自由に広がります。コロナ禍で活動の3つの柱も縮小や中止を余儀なくされていますが、北区社協さんと力を合わせ、ボランティアの主体性を大切にしながら、こんな時代だからこそ私たちの活動を一層進めたいです。

※「ふくちゃんきたちゃん」は北区社協のマスコットキャラクターの名前から

【お問い合わせ】

名古屋市北区社会福祉協議会（委員会事務局）
Tel：(052) 915-7435
Fax：(052) 915-2640
Eメール：kitaVC@nagoya-shakyo.or.jp

きらっと ボランティア・NPOらいぶ

リレートーク 第6回目は、こどもたちに工作を通してものづくりの大切さを伝える「ゆうゆう木工クラブ」代表の山内さんです。

〈インタビュー：シャオムー〉



代表の山内さん

●「ゆうゆう木工クラブ」の発足の背景とは？

皆さん覚えてますか？「愛・地球博」。2005年のイベントでした。

あれから16年も経ったのですね。その年生まれたお子さんは現在16歳の高校生なのです。

「愛・地球博」でボランティアをしてこられた方々の内、いくつかのグループは、周りの応援も受け、引き続きモリコロパークで活動を続けました。それが今回ご紹介する「ゆうゆう木工クラブ」です。代表の山内さんにお話を伺いました。

●どんなことをするボランティアなの？

「ゆうゆう木工クラブ」は、「ものづくりの楽しさをこども達に伝え、未来につなぐ輪と和をひろげよう」をテーマに土日を中心に自然素材を使った工作をこどもたちに教えているのです。この木工、工作教室の開催は、今までに400回を越え、来場のご家族の数は4万人、実際に工作づくりに参加された方は1万7千人を越えているそうです。

●教室に参加するとどんなものが作れるの？

今までに教室で扱ってきたものは多数あります。

「竹とんぼ」、「ストローを使った笛」、「壁掛け」、「切り絵」や「正月飾り」など。

最近よく取り扱っている品目は、「小型のスタンドグラス」や「民芸品のようなバランストンボ」だそうです。

山内さんたちの自信作は、なんといっても竹を削って作るバランストンボです。

トンボのボディと4枚の羽根、合計5個のパーツで構成されたトンボは、細い竹串にのせると絶妙に安定したバランスを保つのです。もともとは営業の仕事をしてきた山内さん、仲間の大工さんに教えてもらい腕をあげていったようです。工作や物づくりについて、山内さんは「やっていくうちに結構できるようになるものですね。」と実感をおられました。

●どのくらいの時間で作品が完成できるのか？

作品によって時間は異なりますが、簡単なものでは20分くらいでできるものもあるそうです。工作の材料を「ゆうゆう木工クラブ」のみなさんがあらかじめ集めているので、誰でも気軽に参加することも魅力です。教室はモリコロパークや他の会場でも開催されているので「ゆうゆう木工クラブ」の教室を見つけたら一度、足を止めて覗いてみてください。

コロナの影響もあってか、現在は工作指導のボランティアに常時参加されている方は6-7名になっているそうです。新規のボランティアさんも募集中だそうですので、応募してみたいはいかがでしょうか？

【お問い合わせ】

ゆうゆう木工クラブ
山内國彦（代表）
FAX:052-696-8246



活動の様子



手作りのバランストンボ・えび・スタンドグラス

きらっとボランティア・NPOらいぶ
リレートーク

次回の取材先は、今回取材した山内さんから推薦していただいた古澤礼太さんです！古澤さんは「中部ESD拠点」という団体でSDGs推進のネットワーク作りをしている方です。お楽しみに！

地区のオススメのボランティア

第5回

名東自然倶楽部



代表の高木さん

『名東自然倶楽部』の代表 高木和彦さんにお話を伺いました。

●『名東自然倶楽部』とは

『名東自然倶楽部』は、名古屋市と「緑のまちづくり活動に関する協定」を結び猪高緑地（※）の豊かな自然の保全を行っているボランティア団体です。①調査、②里山保全、③炭焼き（竹を炭にして有効利用）、④自然観察、⑤竹クラフト（竹の玩具作り）、⑥田んぼ、⑦総合学習（学校での総合学習に協力）、⑧畑、⑨水の環（水環境の保全）の9つのグループで組織されています。

●高木さんの自然の保全に対する思いと主な活動

高木さんは、故郷の環境汚染をきっかけに、環境に関心を持つようになりました。昔、水の都と言われた大垣の名水を工場が大量に吸い上げてしまい、（高木さんが使っていた）井戸が枯れてしまったそうです。また、近所の小川も高木さんが小学生低学年の頃は、小さい魚がたくさんいたのに、高校に入る頃には生物が全くいない寂しい川になってしまいました。

環境破壊を目の当たりにして、自然を保全する大切さに気づいた高木さんは、退職後に『名東自然倶楽部』に参加しました。現在は、代表として環境講座のイベントで環境や団体の活動について講話したり、9つのグループのまとめ役を担った



りしています。また、高木さんは炭焼きグループの代表も兼任しており、現在、週の半分程度緑地に通っています。

里山保全グループの活動は、竹林の増殖防止がメインです。竹の繁殖力は凄まじく、30年前と比較すると数倍に広がっており、年間数千本を伐採しています。その他、年4回タケノコ掘りのイベントも行っています。保全活動を通じて収穫したタケノコやお米は、活動内容を知っていただくことを条件に、名東区内の子ども食堂へ寄付もされています。

また、緑地には溜池が16か所あり、生き物にとって貴重な生息地です。近年溜池が埋もれてしまっているため、木や竹のチップを敷設し、散策路の削れを防止することにより、溜池に流れ込む土砂を少なくし、且つ保水力を上げているそうです。

●みなさんへのメッセージ

この活動では緑地で田んぼや畑、炭焼き作業などをして、豊かな自然を楽しむこともできます。しかし、近年は若いメンバー、特に男性の学生や現役世代の加入があまりなく、団体の高齢化に悩んでいます。この活動は、竹を切ったり、作物を育てたりとやった分だけ成果が見える活動でやりがいも感じやすいです。興味のある方は、学業や仕事がお休みの日にちょっとした気分転換くらいの気持ちでいいので、まずは難しいことは考えず気軽に遊びに来てください！

【お問い合わせ】

HP : <http://sizen.ciao.jp>

Mail : k-takagi@zd6.so-net.ne.jp

※名東区東部にある緑地（66.2ヘクタール）で、生物多様性に富み色々な恵みを与えてくれる場所です。

ほっとはあとクラブメンバーのつぶやき

7年前、取材ボランティアとして“ほっとはあと”の仲間入りをしました。当時、私はこの欄に「相手の望むサポートができるボランティアが増えますように」と書きました。

時は流れ、今、自分の住むまちの町内会リフレッシュ作業（作業について令和4年2月6日付中日新聞『町内会長日記』で紹介されています。ご覧ください）も手伝っています。町内会運営を委ねられたら、住民が町内会に何を期待しているかを丁寧に知る努力が要るなあと感じています。

受け手の意向・都合・期待を把握するのはたやすい作業ではありません。「こんなことをしておけば大多数の人は喜んでくれるだろう」といった勝手な思い込みで善意の活動をしてしまっていないだろうか？自問自答するほっとはあとボランティア兼町内会ボラの私です。

旅する食いしん坊 YM

からだに優しい いきいきレシピ

春野菜と魚介で焼きそばをごちそうに

菜の花とシーフードの焼きそば

キャベツの代わりに旬の春野菜を使った焼きそばです。菜の花(なばな)もグリーンアスパラガスも緑黄色野菜で、抗酸化作用のあるカロテンを豊富に含んでいます。下茹ではせず生のまま炒めるため、水溶性の栄養素が逃げません。野菜の茎が太く、火が通りにくい場合は、縦半分に切りましょう。

魚介はシーフードミックスを使えば手軽に作れます。

材料(2人分)

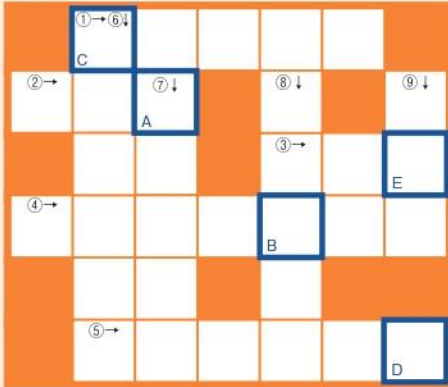
- 焼きそば(蒸し中華麺) 2玉
- むきエビ 8尾
- スルメイカ(小) 1杯
- 蒸しホタテ貝 8個
- 菜の花 2本
- グリーンアスパラガス 2本
- 紅しょうが
- オイスターソース 大さじ2
- しょうゆ 小さじ1
- オリーブオイル



- 1 菜の花は根元を切り落とし、4センチのざく切りにする。アスパラガスも根元を切り、さらに根元の硬い皮をスライサーでむいて4センチに切る。
- 2 イカは内臓を抜き、食べやすい大きさに切る。
- 3 フライパンにオリーブオイルを熱し、エビ、イカ、ホタテ貝、菜の花、アスパラガスを炒める。ほぐした焼きそばを加えて、さらに炒める。
- 4 3にオイスターソースとしょうゆを回し入れて炒める。器に移して、好みで紅しょうがを添える。

プレゼントつきクイズ

クロスワードを解いて、色枠に入った文字をA～Eの順に並べると、何という言葉になるでしょう。



ヨコのカギ(小文字も大文字とします)

- 1 p7「ふくちゃんきたちんボランティア委員会」が年4回開いているのは?
- 2 多肉植物。薬用や加工食品、化粧品として使われることも
- 3 物の表面に、その名称などを貼るもの
- 4 p2-3特集。4月から始まるのは「重層的○○○○○○整備事業」
- 5 右回りの別の言い方

タテのカギ

- 6 p4、南区が取り組んでいるのは「善意をつなぐ○○○○○○」
- 7 ハンガーの以前の呼び方
- 8 アニメ「○○○○○○ラスカル」
- 9 人が着るものの総称

【応募要項】

郵便はがきに①問題の答え、②住所、③氏名、④「ふれあい名古屋」本号で興味があった記事と理由、本紙に対するご意見を書いて下記までお送りください。
締切は2022年4月30日必着。
〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17-1
名古屋社会福祉協議会「ふれあい名古屋」係

【正解発表】

2022年7月号誌上に発表。正解者の中から抽選で10名様に名古屋市総合社会福祉会館にて展示・販売中の授産施設製品の中から500円相当の品を差し上げます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。
個人情報について
応募いただいた個人情報は賞品の発送および本紙の企画以外に利用したり、第三者には提供しません。

前回の答え

しょうがつ



社協からのお知らせ

共同募金へのご協力ありがとうございました

昨年10月1日から12月31日まで実施しました共同募金運動では、市民の皆様から約1億5,674万円（一般募金約1億4,350万円、地域歳末たすけあい募金約1,324万円）の募金が寄せられました。心より厚くお礼申し上げます。寄せられた募金は、市区社会福祉協議会に配分され、お住まいの地域の社会福祉事業の推進や、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らせるための福祉活動等への配分に活用させていただくほか、市町村を超えた広域的な課題を解決するため、全県規模の活動にも活用されます。募金の実績及び配分先は、愛知県共同募金会ホームページ <http://www.aichikaihane.or.jp/> でも紹介しています。



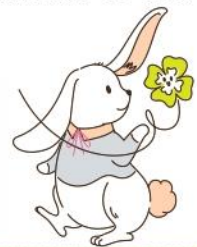
お問い合わせ 名古屋市共同募金委員会
TEL : 052-911-3192 FAX : 052-913-8553

『なごや認知症の人おでかけあんしん保険事業』のご紹介

認知症の人が起こした事故に関する損害賠償等の補償事業です。加入対象者は名古屋市民かつ認知症の診断を受けている人。
補償内容：賠償責任保険 上限2億円／給付金 上限3千万円／見舞金 15万円
給付金及び見舞金は誰も賠償責任を負わない事故で、一定の要件を満たした場合に事故の相手方に支払われるものです。
利用者負担額：無 ※ただし診断書料（初回のみ必要）は自己負担です。

お問い合わせ 名古屋市認知症相談支援センター
TEL : 052-734-7099

名古屋市ホームページ：



ボランティア活動やボランティア行事における万が一の事故に備えて「ボランティア保険」にご加入ください

「ボランティア活動保険」は、ボランティア活動中における傷害事故と賠償事故をセットで補償します。活動場所に向かう往復途上も対象になります。補償期間は、毎年4月1日から翌3月31日まで（年度途中の加入もできます）。補償期間中に複数のボランティア活動をしている場合、一度の保険加入で他のボランティア活動も補償の対象となります。行事毎に加入するタイプの「行事用保険」もあります。安心してボランティア活動をするためにも、ぜひご加入ください。

【申込方法】 申込書に必要事項を記入・押印のうえ、掛け金を添えて、各区社会福祉協議会または名古屋市社会福祉協議会窓口まで。

お問い合わせ

名古屋市社会福祉協議会 ボランティアセンター
TEL : 052-911-3180 FAX : 052-917-0702

地域福祉推進協議会コミック動画を公開しています

名古屋市福祉基金40周年を記念して、福祉基金を財源とする地域福祉推進協議会を紹介するコミック動画を制作・公開しています。ぜひ、ご覧ください。



ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介

ご寄付ありがとうございました

令和3年12月1日～令和4年2月28日受付分（敬称略、順不同）

福祉基金への寄付

フクシマガリレイ株式会社中部支社 / 愉快的仲間たち 代表 松本安司 / 宗教法人真如苑 / 名古屋みんとロータリークラブ / 一般社団法人みつわ / 中村 教子 / 鳳凰敦 / 令和3年度名古屋市公立保育園退職園長 / 地域共生社会の実現に向けた包括的な相談支援体制構築のための研修会募金箱 / 名古屋市一般廃棄物事業協同組合 / 名古屋市健康福祉局職員ワンコイン運動 / 名古屋市子ども青少年局職員ワンコイン運動 / 匿名13件

市社会福祉協議会への寄付

JAM 東海 / 株式会社三菱 UFJ 銀行黒川支店

なごや・よりどころサポート基金への寄付

はまぐちよしお

市社協サポーター（賛助会員）のご紹介

令和2年度・令和3年度会員（令和4年2月28日現在）（敬称略、順不同）

仁木 雅子 / 中央法規出版株式会社岐阜営業所 / 小池 博美 / 渡辺 賢次 / 株式会社マルワ / 株式会社プラス / 鷺見 修 / 木村 剛 / 株式会社せがわ住機 / タック株式会社 / 富田 哲生 / 三谷 洋一 / 北村 泰幸 / 株式会社サンエネック / 上村 成良 / 永井 瑛資 / Kのキンパ / 越俣 加絵 / 水谷 巍 / 東洋羽毛東海販売株式会社 / 株式会社ウイングス / 石田 栄美子 / 立松 博 / 株式会社ラングローバル / 船木 陽子 / 匿名7件

ご寄託ありがとうございました

使用済切手・書き損じはがき・使用済テレホンカードなど 令和3年12月1日～令和4年2月28日受付分（敬称略、順不同）

髙井株式会社 / 田村富士雄 / 北鯨城会 / 新池保育園 / 高橋孝次 / 北区消費者クラブ 高見美智子 / 藪本裕信税理士事務所 / どんとクイズ教育研究所 田中利樹 / みなみ新体操クラブ / ハリキッテ友の会 世話人 毛利 碩 / 社会福祉法人八起社 老人ホーム 誠和荘 / 明治安田生命 名古屋東支社 藤ヶ丘営業所 / 千種・東・北・西・昭和・瑞穂・港・守山・緑・名東区社会福祉協議会受付分 / 匿名11件

ご寄託いただいた使用済切手等は、次の団体に送付しました。

団体名	活用方法
（認定）特定非営利活動法人シェア	毎月1回乳幼児健診の開催など
公益社団法人日本動物福祉協会	動物の虐待防止活動

じむきょくちょうのつばやき

自治会で地域の将来について話し合う機会がありました。同じ時期に家を建て入居した親世代が60代以上となる中で、子どもが住み続ける可能性がある世帯は半分に満たないことが分かりました。10年後、20年後、空き家が増えるようなら、防火、防犯上の懸念材料にもなるため、今後地域として何ができるのが話し合っていく事になりました。自分の死後、子どもや地域に負担をかけないために、個人としての備えも必要ですが、人口減少社会における空き家の活用など社会的な仕組みづくりも急がれます。



名古屋市社会福祉協議会事務局長 柄澤 克彦

社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17番1号 名古屋市総合社会福祉会館内

TEL 052-911-3192 FAX 052-913-8553

http://www.nagoya-shakyo.jp/

Facebook https://www.facebook.com/nagoya.shakyo

E-mail nagoyaVC@nagoya-shakyo.or.jp

※この広報紙は福祉基金を活用して作成しています。

※この広報紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

※市内社会福祉施設、民生委員・児童委員、大学などへの配布及び公共施設に配架しています。

広報紙「ふれあい名古屋 No.136」発行日：令和4年4月1日

発行部数：12,000部

